

ガッド・ブレス・マイセルフ!

僕の名前は馬場惣平、ガンガンいける色白、笑顔がキュートだと言われる20歳のイケメンです。北海道岩見沢で父と一緒に農業をしている(株)丸惣農場の跡取りです。

昨年は僕にとつて感動と感激の一年でした。そのひとつがあの人から「本場の金髪・ブルーアイを見てきなさい」と、一年前から鼓膜が炎症を起こすくらい言われ続け、やっと実現出来たのが昨年9月で、その後、10月上旬まで米国中西部の農場で一カ月間、大豆とコーンの収穫をお手伝いしたことです。

米国ってすごかったです。だって、すべてがデカイんです！ ネットでしか見たことのない500馬力のコンバインで大豆やコーンを収穫して、400馬力のトラクタで収穫物をカートと呼ばれるワゴン車に積み込み、農場のグレインタンクと呼ばれる貯蔵施設に移動し、その後、穀物は天然ガスで乾燥され、州政府にお金を支払い、許可された増トン・トラックで販売先や線路伝いにあるカントリーエレベータまで運ばれます。そして、ただデカイだけではなくスゲー、ハイテクなんですよ。でも雑な仕事やっぺらだろーな！

と思っていました。だってそうでしょ。テレビや新聞なんかでは適当に耕して、飛行機でパーと農薬散布して、ビールばかり飲んでるイメージですよ？ 確かにビールは大好きみたいですが、間違っても昼から飲むことはないし、仕事中はいつも神経ピリピリで、いつボスから怒鳴られるか緊張しっぱなしでした。

ではどこがハイテクなのか、ご紹介します。みなさんGPSって知ってますよね？ 普通、日本だったら、トラクタやスプレーヤに取りつけて真っすぐ走ったり、モニターで作業した所を確認したりしますよね？ 中西部では使い方はもっと進化していて、コンバインと伴走するカートをけん引するトラクタにGPSと自動走行装置が付いています。

そうなんです、手放し運転をしながら速度の調整だけの作業なので、全く疲れ知らずで、夜遅くまで仕事しています。イメージできますか？ たとえば彼女とドライブは手放し運転で、僕の左手は彼女の方の…と

すべてがデカイ！ 米国で受けた感動と感激 (by 20歳のイケメン)

Vol.57



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

言っことですよ。ね、ね、すごいことですよね？

バイテク（バイオテクノロジ）遺伝子組み換え作物も勉強しました。畑は見渡す限り収穫を待つ穀物だけ、雑草なんか一本もありません。大豆はラウンドアップを散布しても枯れないし、コーンはリバティ（グリホシネート）を散布しても枯れません。ボスはこのバイテクを利用できるようになって農薬の散布量

オレにも言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

も減り、作業自体が減ったので精神的な負担がなくなり、マーケットに安定供給することが出来るのは米国農家の義務であり、プライドある仕事だと言っていました。こんな言葉、日本では聞けませんよね? そして毎年、土地を購入して面積を拡大している。バイテクだけに頼り、怠けていない姿勢ってやっぱり凄いことだと思っんです。

でもそんなバイテクを否定する同僚がいたんですよ。彼の名前はロドリゴ・サクラダ君。名前から分かるように日系ブラジル人の3世で、彼とは近くの街のアパートに2人で住んで、ピックアップを運転して農場に毎日通っていました。ある時、僕が「ラウンドアップを散布しても枯れないってすごくない?」と言ったところ、「こんでもない! そんな技術は日本には必要ないだろう!」って、すごい剣幕で怒っているんです。彼の怒りがすごかったので、それ以上の上のことは深く聞かせませんでした。やはり日本人の平均的なDNAを受け継いでいるのか、学者肌のサクラダ君なので特別な科学的な意見をもっているのか……。だったら彼はこの米国ではなく日本で農業研修をした方が良かったのに。

でもブラジルもこのバイテクを使って穀物を世界に輸出しているの

に、なぜ日本の生産者だけがバイテクを使うことに反対するのか?

一カ月間で休んだのはお腹が調子悪くなった一日だけで、30日間収穫作業が続き、帰国が迫ってボスから、もう10日くらい手伝わってくれないか? って言われた時は、成長した自分を認めてくれたようでうれしかったのですが、北海道に帰ってすぐ大豆とソバの収穫が待っていたので、また来ることを約束して涙の別れとなりました。

実は、今回の米国行きの話は、一昨年のニュージージーランドの農場に一年間いて、帰国したときに、あの年から「**今度は米国だな**」と言われていたのです。父や母は一年も海外にいたのだから充分だろ? と思っていたようですが、自分の心には何かモヤモヤした気持ちがありました。ニュージージーランドで学んだことは多くあったのですが、では自分の働く農場でどのように役に立つのか? と考えた時、やはり違うなと感じたのです。父さんと働く農場はコム、麦、大豆、ソバなどの穀類が中心ですが、ニュージージーランドでは牧草を中心とした放牧農業だったので毎日、牛や羊が逃げないようにするための鉄製のフェンスの修理ばかりで悶々とした日々を過ごしました。で、ニュージージーランドが嫌いにな

ったか? そんなことはありません。たぶんあの国で生まれ、あの国で育ったら、やはりニュージージーランドが一番平和で豊かな国だと言えるでしょうね。あっ、そういえば大嫌いなったことがありました。若いドイツ人です。あいつら全く働かないのです。ワーキングホリデーみたいなので、農場にもやってくるんですが、ほとんどのドイツ人は昼からビール飲んでるか、ズル休みするか、具合が悪いと言って早退しちゃうんです。女性のドイツ人もいたんですが、同じですね。結局、そのツケは自分に降りかかって来て、雑用までやらされいつも大忙し、でも給料は同じなんです。これじゃ労働意欲無くなりますよね。

金髪・ブルーアイのドイツ人ってイタリア人やスペイン人よりも真面目で、働き者ってイメージあるけど、あれってどこの時代の誰の話だったんだろう。ヨーロッパは米国と違って歴史があつて豊かなイメージがあるけど、僕と同じ年のドイツ人の将来って悲惨な結果になるのかな。

米国のボスはドイツ系でマジメ、でも本家のドイツ人は……。ブラジルの日系人と本家の日本人のバイテクの考え方は同じ? それに比べて日本人って真面目だなくって思いますよ。これも父や母が真面目に働

いた結果なのかな、少し感謝して

ます。

あの人はこう言っています。「**真面目に生きていけるのも、日本の農水の政策と予算がしっかりしているからだよ**」って。そういえばニュージージーランドに行く前にあの人からは「**金髪・ブルーアイの彼女連れて来い**」って言われました。母は「良いんじゃない」って言ってくれましたが、父は「こんでもない、おれは英語が出来ないから困る」って変な心配してました。

今回の米国実習は自分の世界観を変えました。歴史観、機械選択、投資、作物の選択、一番は勝ち組の論理を学んだことで、間違いなく将来の自分に役立つでしょう。あの人が口頭から言っている「**豊かな経済基盤があつて農業も豊かになる**」の意味がわかりました。

これからバイオ技術を使う僕たちの世代が日本農業をもっと豊かにするためにめんこい(かわいい)、いや、賢い彼女を募集中です。編集部にアドレス聞いていただいて、僕に興味のある人のファンレターをお待ちしています♡

ところで、金髪・ブルーアイ好きのあの人も、もうお分かりですよ?